



株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	6月
定時株主総会議決権基準日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
上場金融商品取引所	東京
公告方法	当社公告につきましては、右記ホームページに掲載いたします。 http://www.nichirei.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	☎0120-288-324 受付時間：9:00～17:00(土・日・祝日を除く)

ご案内

株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種のお手続きにつきましては、以下のいずれかの窓口にお申し出ください。

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ①証券会社等の口座に記録された株式に関するお手続き | お取引の証券会社等 |
| ②特別口座に記録された株式に関する各種お手続き | みずほ信託銀行株式会社(特別口座の口座管理機関) |

株主優待制度の廃止に関するお知らせ

本年2月に『株主優待制度の廃止』についてお知らせしました通り、新たな資本政策と配当方針に基づく利益還元が定着してきたこと、また、株主の皆様に対する公平な利益還元が求められていることから検討を重ねました結果、現金による利益還元を充実していくことがより適切であると判断し、2009年3月31日現在の株主名簿に記録された1,000株以上保有の株主の皆様に対する株主優待品の贈呈をもちまして廃止とさせていただきます。

従いまして、2010年3月31日現在の株主名簿に記録された株主の皆様に対する株主優待品の贈呈は行いません。

今後も株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と認識し、業績の向上に全力で取り組んでまいりますので、何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。



第92期 グループ報告書
2009年4月1日～2010年3月31日



© Charles Wysocki, Inc. Licensed by Mosaic Licensing, Inc. through Mega Press Japan.



株式会社日本スマートエナジー

この印刷物は、印刷プロセスで使用する4.66kgのアルミ板をリユースして印刷させることで、
CO2排出量を42.54kg削減しました。

当CO2削減認証は株式会社日本スマートエナジーがこの印刷システムを厳格・公正に審査・確認して与えられたものです。



42.54kgのCO2削減量とは
樹齢50年(高さ22m・直径26cm)の杉の本約3.05本分が1年間に吸収するCO2量に匹敵します。
(出典:林業白書)



ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-002499
© 1996 Forest Stewardship Council

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。



Contents

株主の皆様へ	2
新中期経営計画“energy 2012”	3
トップインタビュー	5
新社長紹介	8
連結決算ハイライト	9
連結決算概要	10
ニチレイフーズの食育	14
TOPICS	15
ニチレイECO	17
INTRODUCTION	19
おいしさひと工夫	20
株式の状況	21
会社概要	22

Profile 表紙絵の画家プロフィール **Charles Wysocki**
アメリカ、デトロイトで幼少時代を過ごす。デザインを勉強後、絵を描き始める。休暇で出かけたニューイングランドの生活のテンポが彼の思考に合い魅了される。そこでの生活が彼の作品に影響を与え、ナイーブで彼の生き方を反映した作品に仕上が^り、多くの賞を受賞。2002年7月没。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第92期グループ報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当期のわが国経済は、アジアを中心とした海外経済の改善に伴って輸出が増加したことや経済対策の下支え効果により堅調に推移しました。しかしながら、自律的な回復には至っておらず、足もとでは、円高やデフレの影響などにより企業を取り巻く環境が厳しい状況であったことや完全失業率が高い水準で推移したこと、設備投資も大幅に抑制されたことなどから、景気の回復は低い水準に留まりました。

食品・物流関連業界におきましては、消費者の節約志向の高まりから大手小売業者によるプライベートブランド(PB=自主企画)商品の拡大などにより低価格化が顕著になるとともに、荷主企業の在庫調整が一巡したことに伴って、高い水準を維持していた在庫量は減少傾向に転じ、輸送

需要も荷動きが低迷するなど業界を取り巻く環境は目まぐるしく変化しました。

このような状況のなか、ニチレイグループは、「グループ中期経営計画(2007年度～2009年度)」の最終年度として、激変する事業環境へ即応することを最優先としながらも将来の収益基盤の強化・拡大に取り組みしました。

ニチレイグループは、2010年4月から新たな「グループ中期経営計画“energy 2012”(2010年度～2012年度)」を開始しました。新中期経営計画期間においては、厳しい事業環境の継続が予想されるなか、足もとの状況を見つめなおし、事業戦略の着実な遂行とスピーディーな環境対応を通じて、持続的な利益成長へつなげることを基本的なコンセプトとしています。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月吉日

グループミッション・ビジョン

ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

ビジョン【めざす姿】

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。



代表取締役会長 浦野光人 代表取締役社長 村井利彰

新中期経営計画“energy 2012”(2010年度～2012年度)

事業戦略の着実な遂行とスピーディーな対応力、持続的成長をめざして

ニチレイグループの全体戦略

1 収益力を向上させ、適正な経営資源の配分により持続的なグループの成長を実現

●事業活動から創出されるキャッシュ・フローについては、ニチレイグループのコア事業である加工食品事業と低温物流事業の事業基盤拡充のための投資を継続する。

2 成長機会を迅速に捉え、基幹事業会社の自主的成長を推進

※次ページ、セグメント別事業計画をご参照ください。

3 「食の安全・安定」という価値の提供を通じて社会からの信頼の獲得

●グループの品質保証力をグローバルに強化し、ニチレイブランドの信頼性向上と拡販につなげる。
●世界の食料資源の安定的調達に努める。

4 経営品質のさらなる向上に取り組み、グループ競争力の源泉を強化

●コーポレート・ガバナンスの強化、働きがいのある組織風土づくりの推進、ニチレイグループらしい社会貢献の実現など、企業の社会的責任を積極的に果たしていく。

※1 連結株主資本配当率(DOE)＝配当総額÷(連結純資産－少数株主持分)
※2 連結配当性向＝配当総額÷連結純利益

●環境保護と企業の持続的発展の両立をめざし、温室効果ガス削減を中心とした環境・資源保護に配慮した製品・サービスの開発・提供に取り組む。

5 新規技術に関する情報収集分析力を強化し、グループの持続的成長に向けた新規ビジネスモデル創出につなげる

6 資本政策の一環として自己株式取得の検討

●本計画後半には、フリーキャッシュ・フローの増大も織り込めることから、資本の効率性向上のため、当面1,500万株(発行済み株式総数の約5%)程度の自己株式取得を検討する。
●配当方針に関しては従来どおり、連結株主資本配当率(DOE)※12.5%、連結配当性向※225%を目標とする。

7 退職給付制度の再構築

●将来的な財務上のリスク低減と安定的な従業員給付を実現するため、グループの退職給付制度の再構築(確定拠出年金と前払退職手当の併用制度への移行)を検討する。

セグメント別事業計画

●加工食品事業(ニチレイフーズ)

- ・チキン加工品：既存の生産体制に加え、タイの新工場の稼働により品質・価格・物量ともに安定した供給体制を作り上げ、業界内での圧倒的なポジションを確立する。
- ・主要商品(米飯、食肉加工品、春巻、コロッケ)：高品質な素材の調達力を活かし、魅力ある商品投入を行うことにより、カテゴリNo.1を確実なものにする。
- ・農産加工品：競争力のある商品への集中を行うとともに、新技術による商品開発に取り組む。
- ・中国国内での事業に加え、タイやブラジルの生産拠点を起点にしたグローバル市場開拓を進めていく。
- ・健康価値事業：対象市場の絞込みとシニアの健康サポートサービスに集中し、収益の改善を図る。
- ・アセロラ原料事業：売上を欧州を中核とした海外市場へ拡大し、世界シェア40%をめざす。
- ・継続的なコスト圧縮を実施する。

●水産・畜産事業(ニチレイフレッシュ)

- ・刷新した営業体制で顧客要望への迅速な対応を行い、市場の求める品質を重視した商品開発を強化する。
- ・加工度を上げた魅力ある商品の開発を強化し、中食市場での販売拡大を図る。(水産事業)
- ・「こだわり素材」における川上領域での事業強化を図る。(畜産事業)
- ・新興国を中心とした海外販売を強化する。また、グローバルな品質保証力も強化していく。
- ・資源の調達ルートの変化に基づき、海外拠点の再編を行う。

●低温物流事業(ニチレイロジグループ)

【地域保管事業】

- ・東扇島物流センター(川崎市)等の大型拠点新設を契機とした顧客開拓を進め、顧客基盤を拡充する。
- ・地場荷物の開拓を継続し、グループの配送能力を活用して顧客の全国への事業展開を支援する。

2012年度セグメント別売上高・営業利益

(単位：億円)		
セグメント	売上高	営業利益
加工食品	1,800	60
水産	710	12
畜産	900	9
低温物流	1,578	82
不動産	61	26
その他	73	3
全社	61	13
消去	▲315	▲17
合計	4,868	188

【物流ネットワーク事業】

- ・車両活用や調達基盤見直しによる価格競争力を実現する。
- ・顧客要望の高いチルド・常温領域にも事業を拡大する。

【海外事業】

- ・欧州：現地持株会社機能の強化、新規取得するフランスの低温物流企業の活用、ポーランド新センターでの顧客基盤拡大を図る。
- ・中国：第二センターの早期建設を図る。

●不動産事業(ニチレイ)

- ・2011年に主要物件の賃貸契約が終了するのに備え、グループ各社との連携により、閉鎖拠点跡地などの有効利用を図り、グループ収益を下支えする。

●その他

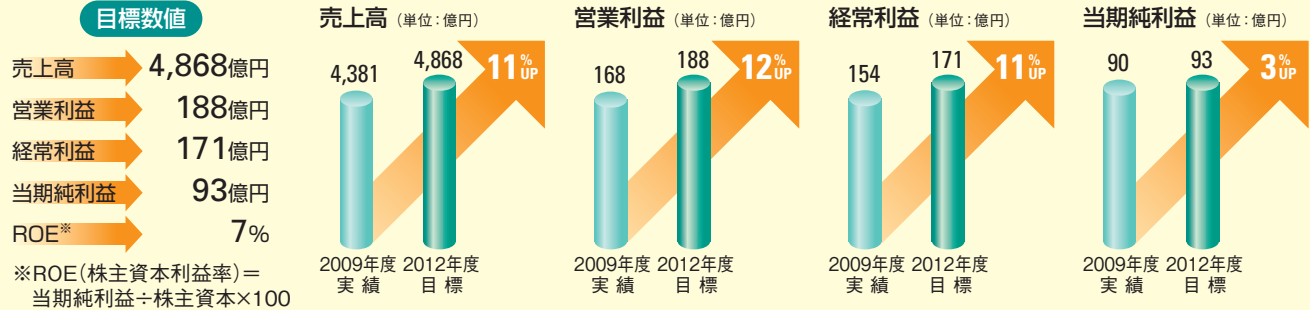
○バイオサイエンス事業(ニチレイバイオサイエンス)

- ・主力の培地製品の販売拡大、組織染色分野での機械据え置き販売モデルの推進を行う。
- ・新たな機能性素材の上市、探索を継続するとともに、化粧品販売事業の単年度黒字化をめざす。

○シェアードサービス(ニチレイプロサーヴ)

- ・グループ企業の円滑な事業活動と成長をサポートするための人材育成と配置を行う。

ニチレイグループ全体の2012年度目標数値





代表取締役社長 村井 利彰

ニチレイグループの持続的成長への道筋を明確にし、「2012年度末のあるべき姿」の実現をめざして

2010年度は、新中期経営計画“energy 2012”（2010年度～2012年度）のスタートの年です。前中期経営計画（2007年度～2009年度）で出てきた課題を踏まえ、各事業会社の独自能力を発揮し、お客様本位に徹することで「2012年度末のあるべき姿」を実現していきます。

今後も引き続き厳しい経営環境が予想されるなか、ニチレイグループの各事業会社の目標達成に向けて村井代表取締役社長にお聞きしました。

Q 「攻めと挑戦」を掲げた前中期経営計画（2007年度～2009年度）の振り返りおよび認識した課題についてお聞かせください。

前中期経営計画は、「攻めと挑戦」の期間と位置付け、改善された財務体質を背景に、事業活動から生み出されるキャッシュ・フローを成長分野への投資に優先的に振り向け収益基盤の拡大を図りました。

加工食品事業では、タイでのチキン加工品工場の建設、低温物流事業では、冷蔵倉庫・物流センターのスクラップ&ビルド等、これらの大型設備投資は、2010年度以降順次収益に貢献する予定です。

しかしながら、この3ヶ年の期間においては、想定をはるかに超える原材料価格の上昇に加え、2008年度秋以降の世界同時不況に起因する需要減退と低価格化、為替変動等の外的な影響を受けました。特に加工食品事業において、これら環境の変化への対応が遅れ、全体では当初の目標数値には大きく届かない結果となりました。

前中期経営計画最終年度（2009年度）の結果と計画比（単位：億円）

	計画	実績	計画比
売 上 高	5,331	4,381	▲ 949
営 業 利 益	226	168	▲ 57
経 常 利 益	208	154	▲ 53
当 期 純 利 益	114	90	▲ 23

Q

前中期経営計画最終年度（2009年度）の各事業の業績評価をお願いします。

加工食品事業は、先ほど申しあげたように事業環境の変化への対応が遅れ、ビジネスモデルの転換がうまくいかなかったように思えます。十分な生産利益を得る目的でOEM主体から自社生産比率の向上へ取組みを進めましたが、その進捗スピードの遅れも要因の一つと言えます。また、大きな痛手だったのが2008年に起きた「中国産冷凍餃子事件」です。冷凍食品そのものが非常に危ない食品だというイメージを持たれてしまいました。

水産事業は、前中期経営計画のスタート年度で5期連続赤字という状況でしたが、固定費の圧縮と採算性の重視を柱とした再生プランが奏効し、最終年度（2009年度）の



営業利益は、当初の計画値を達成することができました。

畜産事業は、2008年度後半からの輸入チキンの供給過剰などの影響が残り、業界全体として市況が安定しないなか、商材の調達を慎重に進め、年初に公表した営業利益を確保することができました。水産・畜産事業ともに、この3年間で、市況に左右されにくい事業体質ができました。

低温物流事業は、運送需要の低迷の影響を受け、物流ネットワーク事業における運送事業の拡大が遅れましたが、新物流センターを順調に稼働させることができました。また、地域保管事業においては集荷活動の継続、ローコスト運営などに努め、営業利益は当初の計画値を達成することができました。なお、欧州地域は経済環境が厳しく、海外事業は苦戦を強いられました。

前中期経営計画期間を通して、各事業の課題が明らかになってきていますので、これらの課題をスピーディーかつ積極的に解決し、新中期経営計画を推進していきたいと考えています。

Q

新中期経営計画（2010年度～2012年度）の取組み方針をお願いします。

新中期経営計画期間においては、厳しい事業環境が



続く予想されます。足もとの状況を見つめなおし、「事業戦略の着実な遂行とスピーディーな環境対応を通じて、持続的な利益成長へつなげることを基本的なコンセプトとしています。特に、計画期間の前半においては、加工食品事業の回復に注力し、後半では前計画期間に低温物流事業を中心として積極的に行った設備投資の成果を着実に上げるとともに、海外市場の開拓を含め、各事業領域でのNo.1の地位を確立するための施策を講じていきます。

加工食品事業では、海外(タイ)自営工場の増強により自社生産比率は拡大します。自社生産力の増強で得られる生産利益に加えてフルインテグレーションによるコスト面・品質面での差別化を図り収益性改善を進めます。特に今後市場の成長が見込まれるチキン加工品を中心に拡大していきます。

低温物流事業では、高い物流品質と圧倒的なコスト競争力をもとに大型の新設拠点を契機とした顧客開拓を進め、顧客基盤の拡大を図っていきます。欧州地域では、ポーランド新拠点の安定稼働と新たに買収するフランスの物流会社とのシナジー効果を活かし、欧州全域への事業基盤拡充を図っていきます。

Q ニチレイグループの環境保全活動についてお聞かせください。

ニチレイグループは、環境保全活動と企業の持続的発展の両立に向け、環境経営への取組みをグループ全体として推進しています。「地球環境保護と低炭素社会の実現」をめざし、地球環境保護や環境技術に係る動向を的確に把握し、「環境価値の創造」に向けたグループ環境戦略を企画・立案するとともに、ニチレイグループの事業特性に合った環境保全活動を維持・向上させていきます。そして、低炭素社会の実現に向けてCO₂のグループ(国内)年間排出量23万トンにつき、中期目標を定め、総排出量の削減に取り組みます。

CO₂総排出量の削減に向けては、自社の企業活動から排出されるものに加え、ニチレイグループが提供する商品・サービスを通じて、お客様が排出しているCO₂を削減できる取組みを提案していきます。

今後とも、企業の持続的成長を見据えた環境保全活動への取組みを継続していきます。

Q 最後に株主の皆様へ向けてのメッセージをお願いします。

新中期経営計画“energy 2012”には、「ニチレイグループは、ステークホルダーの皆様の期待に応えるために、本計画では従業員の‘活力’をベースに事業活動を推進し、事業ビジョン達成に向けて計画を力強く

実行することで今後の持続的成長につなげる。」というメッセージが込められています。

株主の皆様からより一層の信頼を寄せていただけるよう、ニチレイグループ役員・社員一丸となって、計画達成に向け全力を尽くしてまいります。

今後とも引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新社長紹介



代表取締役社長

中村 隆

株式会社ニチレイプロサーヴ (シェアードサービス)

企業価値の増大のために

私たちニチレイプロサーヴのミッションは、ニチレイグループの各事業の価値増大に、人事、総務、財務、広報IR、法務・知財などのいわゆる支援業務を通じて貢献することです。

支援業務は、ともすると業務そのものを遂行することで満足してしまいがちなのですが、これだけでは本来やるべきことの半分にすぎません。残りの半分の完成させるために、私は次のことを心がけてきました。

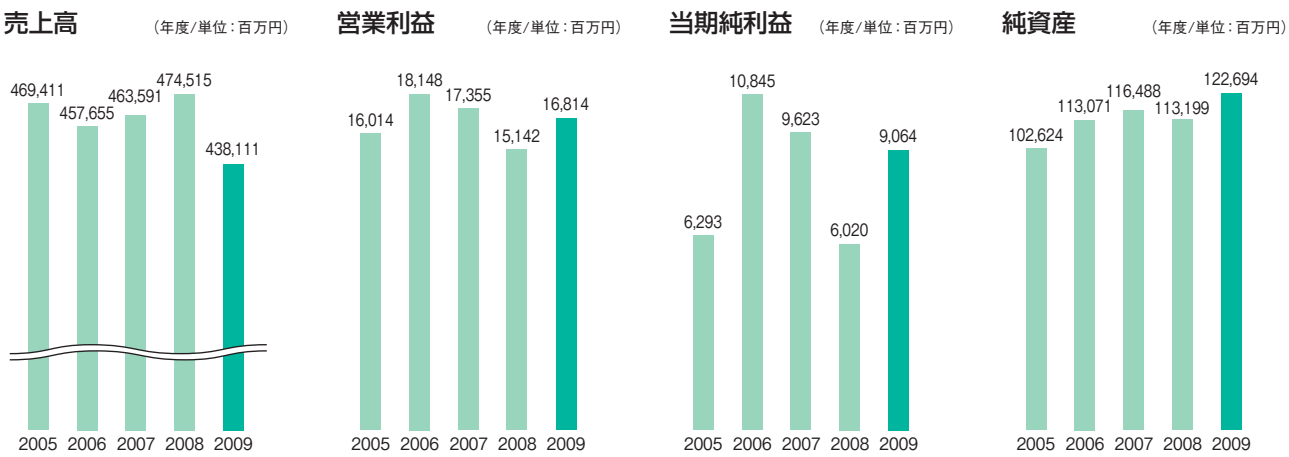
第一に、ビジネスそのものを理解することです。経営、マーケティング、金融、あるいはまた経済学などもビジネスを知るためには必要になります。

第二に、他人に学ぶこと、つまり情報のネットワークを積極的に構築することです。普通にしていると、どうしても情報は偏りがちになります。積極的に社外の情報ネットワークを作ることによって、飛躍的に情報の精度が向上し幅が広がります。

第三に好奇心と探求心を持ち続けることです。子供のように無邪気な好奇心と、どうしても知りたいという探求心を持つと、その行動力自体が楽しくなるものです。

ニチレイプロサーヴがそのミッションをしっかりと果たし、ニチレイグループの企業価値が一層増大するよう努めてまいります。

連結決算ハイライト



区 分	単位	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
売 上 高	百万円	469,411	457,655	463,591	474,515	438,111
営 業 利 益	百万円	16,014	18,148	17,355	15,142	16,814
経 常 利 益	百万円	15,660	17,388	16,890	14,171	15,450
当 期 純 利 益	百万円	6,293	10,845	9,623	6,020	9,064
総 資 産	百万円	268,501	269,166	257,812	287,296	277,496
純 資 産	百万円	102,624	113,071	116,488	113,199	122,694
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	円	19.83	34.97	31.04	19.42	29.24
1 株 当 たり 純 資 産	円	330.40	358.08	368.56	357.85	385.47
設 備 投 資 額	百万円	6,553	8,958	7,044	13,972	23,610
減 価 償 却 費	百万円	14,259	13,167	13,144	13,738	13,506
有 利 子 負 債	百万円	114,499	99,431	90,569	110,495	85,792
従 業 員 数	名	5,603	5,711	6,054	6,250	6,577

(注) 1. 2005年度における「純資産」には、会計基準に伴う少数株主持分は含まれていません。
2. 2008年度から「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(1993年6月17日(企業会計審議会第一部会)、2007年3月30日改正))および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(1994年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、2007年3月30日改正))を適用して算出しています。
この適用に伴い、2008年度以後の「有利子負債」にはリース債務を、「設備投資額」および「減価償却費」にはリース資産を、それぞれ含めた額を記載しています。また、2007年度以前についても、有価証券報告書のリース関係取引の注記事項を基にそれぞれ修正しています。

連結決算概要

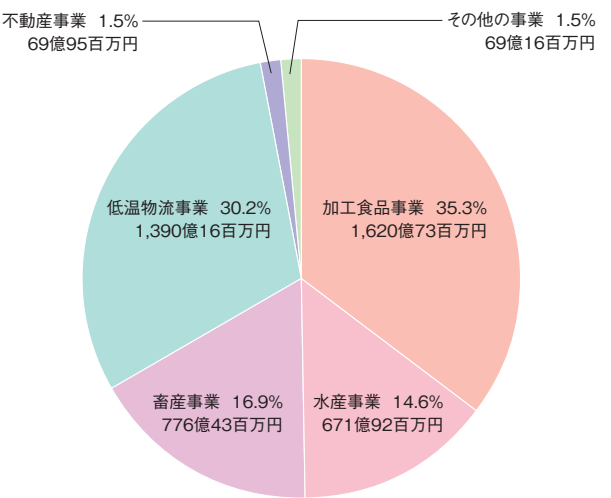
当期の売上高は、加工食品事業や水産・畜産事業において採算性改善のため商品アイテムの絞り込みを行ったことなどから4,381億11百万円(前期比7.7%の減収)となりました。

営業利益は、加工食品事業において原材料調達コストが安定したことなどから168億14百万円(前期比11.0%の増益)となり、経常利益も営業利益の増加を受けて154億50百万円(前期比9.0%の増益)となりました。

特別利益の総額は、事業譲渡益など11億69百万円となる一方、特別損失の総額は、固定資産除却損など22億38百万円となりました。

以上により、当期純利益は、90億64百万円(前期比50.6%の増益)となりました。

セグメント別売上高構成比



セグメント情報

●連結子会社数 74社 ●持分法適用関連会社数 13社

当 期	2009年4月1日から2010年3月31日まで	(単位:百万円)
	売上高	営業利益
加 工 食 品 事 業	162,073	2,561
水 産 事 業	67,192	893
畜 産 事 業	77,643	676
低 温 物 流 事 業	139,016	7,883
不 動 産 事 業	6,995	3,721
そ の 他 の 事 業	6,916	427
計	459,838	16,163
消 去 また は 全 社	(21,726)	650
連 結	438,111	16,814

前 期	2008年4月1日から2009年3月31日まで	(単位:百万円)
	売上高	営業利益
加 工 食 品 事 業	174,027	2,023
水 産 事 業	76,078	275
畜 産 事 業	92,517	△ 30
低 温 物 流 事 業	142,345	8,231
不 動 産 事 業	7,357	4,043
そ の 他 の 事 業	6,622	224
計	498,949	14,767
消 去 また は 全 社	(24,434)	374
連 結	474,515	15,142

連結決算概要

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

区 分	当 期 2010年3月31日現在	前 期 2009年3月31日現在
流 動 資 産	94,833	116,589
固 定 資 産	182,662	170,707
有 形 固 定 資 産	140,806	130,921
無 形 固 定 資 産	4,413	4,757
投 資 そ の 他 の 資 産	37,442	35,027
資 産 合 計	277,496	287,296
流 動 負 債	89,550	111,576
固 定 負 債	65,251	62,520
負 債 合 計	154,802	174,096
株 主 資 本	115,943	109,715
資 本 金	30,307	30,307
資 本 剰 余 金	23,709	23,711
利 益 剰 余 金	62,318	56,045
自 己 株 式	△ 393	△ 348
評 価 ・ 換 算 差 額 等	3,524	1,242
少 数 株 主 持 分	3,225	2,241
純 資 産 合 計	122,694	113,199
負 債 純 資 産 合 計	277,496	287,296

POINT

貸借対照表のポイント
(括弧内は前期末比の増減)

総資産

2,774億円 (98億円の減少)

○前期に前倒しで調達した資金を長期債務の返済に充当した結果、現金及び預金が132億円減少、売上債権が43億円、たな卸資産が45億円減少したことなどにより流動資産は217億円減少
○設備投資による有形固定資産の98億円増加や、投資有価証券の時価評価額の増加などにより固定資産は119億円増加

負債

1,548億円 (192億円の減少)

○設備投資などにより未払金が41億円、リース債務が22億円増加
○長期債務の返済などにより有利子負債(リース債務を除く)が269億円減少

純資産

1,226億円 (94億円の増加)

○当期純利益90億円の計上、配当金の支払い27億円などにより利益剰余金が62億円増加
○評価・換算差額等が22億円増加

POINT

有利子負債のポイント

有利子負債は、長期借入金の返済や社債の償還が進み前期より247億円減少し、857億円となりました。

有利子負債の状況 (単位: 百万円)

2008年度

2009年度

110,495

85,792

短期借入金

11,474

17,373

コマーシャル・ペーパー

10,000

13,000

社債

10,000

—

長期借入金

56,429

30,547

リース債務

22,590

24,872

連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

区 分	当 期 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで	前 期 2008年4月 1日から 2009年3月31日まで
売 上 高	438,111	474,515
売 上 原 価	350,153	387,186
売 上 総 利 益	87,957	87,328
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	71,143	72,185
営 業 利 益	16,814	15,142
営 業 外 収 益	1,628	2,090
営 業 外 費 用	2,992	3,061
経 常 利 益	15,450	14,171
特 別 利 益	1,169	690
特 別 損 失	2,238	3,499
税金等調整前当期純利益	14,380	11,362
法人税、住民税及び事業税	5,154	5,443
法 人 税 等 調 整 額	△ 13	△ 336
少 数 株 主 利 益	174	235
当 期 純 利 益	9,064	6,020

POINT

損益計算書のポイント
(括弧内は前期比の増減)

売上高

4,381億円 (364億円の減収)

(単位: 百万円)

前期

474,515

当期

438,111

○加工食品事業は、家庭用調理冷凍食品が市場全体の回復を受け比較的順調に推移するも、市場の低価格志向などにより業務用調理冷凍食品が落ち込み、全体で減収
○水産事業は、不採算商材の取扱いを絞り込んだことにより減収
○畜産事業は、消費低迷の影響を受けて加工業者向けの原料需要が減少したことなどから輸入品の販売が落ち込み減収
○低温物流事業は、物流ネットワーク事業の新設物流センターの稼働により増収するも、欧州地域の景気低迷やユーロ安(円高)の影響を受けた海外事業が大幅に落ち込み、全体で減収

営業利益

168億円 (16億円の増益)

(単位: 百万円)

前期

15,142

当期

16,814

○加工食品事業は、原材料調達コストの低下、広告費の抑制などにより増益
○水産事業は、差別化された「こだわり素材」など重点商品の取扱いに注力、固定費は前期に引き続き低水準に維持されたことから増益
○畜産事業は、商材の調達を慎重に進めたことなどから採算性は改善
○低温物流事業は、物流ネットワーク事業、地域保管事業とも増益となるも、海外事業の業績が大幅に落ち込み減益

経常利益

154億円 (12億円の増益)

(単位: 百万円)

前期

14,171

当期

15,450

○営業利益の増加により増益

当期純利益

90億円 (30億円の増益)

(単位: 百万円)

前期

6,020

当期

9,064

○特別利益 11億円
・事業譲渡益など
○特別損失 22億円
・固定資産除却損8億円
・減損損失7億円
・事業所閉鎖損失5億円

連結決算概要

(注)1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円)

区 分	当 期	前 期
	2009年4月 1日から 2010年3月31日まで	2008年4月 1日から 2009年3月31日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	33,345	15,282
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,555	△ 14,740
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 33,323	16,085
現金及び現金同等物に係る換算差額	209	△ 1,184
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 13,324	15,442
現金及び現金同等物の期首残高	19,564	4,121
現金及び現金同等物の期末残高	6,239	19,564

連結株主資本等変動計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで) (単位：百万円)

区 分	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2009年3月31日残高	30,307	23,711	56,045	△ 348	109,715	2,241	51	△ 1,050	1,242	2,241	113,199
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当			△ 2,790		△ 2,790						△ 2,790
当 期 純 利 益			9,064		9,064						9,064
自 己 株 式 の 取 得				△ 50	△ 50						△ 50
自 己 株 式 の 処 分		△ 1		5	4						4
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						1,481	△ 32	833	2,282	984	3,267
当 期 変 動 額 合 計	—	△ 1	6,273	△ 45	6,227	1,481	△ 32	833	2,282	984	9,494
2010年3月31日残高	30,307	23,709	62,318	△ 393	115,943	3,723	18	△ 217	3,524	3,225	122,694

P O I N T

キャッシュ・フロー計算書のポイント

(括弧内は前期比の増減)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー **333**億円の収入 (180億円の増加)
- 経常利益154億円、減価償却費135億円を計上、営業資金(売上債権、たな卸資産、仕入債務)の圧縮による資金増加が88億円となる一方、法人税等の支払い55億円などにより、333億円の収入
- 投資活動によるキャッシュ・フロー **135**億円の支出 (11億円の増加)
- 有形固定資産の取得などにより、135億円の支出
- 財務活動によるキャッシュ・フロー **333**億円の支出 (494億円の減少)
- 有利子負債の返済や配当金の支払いなどにより、333億円の支出
- 以上により、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ133億円減少し、62億円となりました。

ニチレイフーズの食育

食育への取組みについて

ニチレイフーズは、「食」を通じ、生活者の皆様に様々な体験をしていただき、安全なものを選ぶ情報や会話の弾む楽しい食卓のための話題を提供し、人々のカラダと心を健康にしたいとの思いを込めて、食育推進活動に取り組んでいます。

活動紹介

ニチレイフーズの国内6ヶ所の自営工場では、周辺地域の小中学生を対象に「キッズツアー 体験！工場見学」を実施しています。内容は、ニチレイフーズの会社概要説明に始まり、冷凍食品の製造工程を見て学ぶ工場見学のほか、冷凍倉庫体験や各工場独自のプログラム体験です。

一例を挙げると、森工場では年間45件のキッズツアーを実施し、工場見学、コロッケ手作り体験、冷凍倉庫体験プログラムを通して、冷凍食品の出来上がりまでの工程や作りたてのおいしさを体感します。

出前授業では、世界の食糧事情と日本の食料自給率を知ること、子供たちと一緒に食物の大切さについて考える内容を展開しています。

また、地域で行われる食育イベントでは各地域の営業支社を中心に、人の五感(視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)を使った体験型のワークショップを展開しています。昨年、栃木県で開催された「とちぎ食と農ふれあいフェア2009」では、(財)栃木県学校給食会とニチレイフーズ



森工場出張授業風景



「とちぎ食と農ふれあいフェア2009」：冷凍食品製造体験
食品の冷凍前後での温度変化を体感

宇都宮支店とが共同で出展し、来場者の方々に「冷凍食品作り」を実施し、冷凍前後での食品の温度変化と製造体験により、瞬間的に「凍る」ことを通して、冷凍食品の性質について知っていただきました。

GFPT Nichirei (Thailand) Company Limited ～ 日系初！一貫生産のチキン加工事業

GFPTニチレイ(タイランド)社は、タイ王国の有力チキンインテグレーターである、GFPTパブリックカンパニー社と株式会社ニチレイフーズとの合併で設立されました。

GFPTニチレイ(タイランド)社は、株式会社ニチレイフーズの基幹事業であるチキン事業の基盤強化を目的とし、チキン製品の安定供給と事業の安定収益を図ることを使命としています。事業の根幹を支える原料の安定調達のため、日系企業としては初めてタイの自社で原料処理とカットをし、加熱加工を行った上で、2010年夏に日本の農林水産省の許可を得次第、日本へと製品を供給します。

当社は、一貫生産体制の下、素材を知り、素材の力を引き出す加工技術を加え、おいしさを実現し、皆様の健康を食からサポートし、一羽から得られる部位を使って食シーンに合った様々なメニューに素材の良さを生かしながら、楽しさと使いやすさを提案していきたいと考えています。

また、食の安全へも十分配慮するため、ニチレイフーズ独自の生産管理システムPAS※の導入やフードディフェンスセキュリティシステムなどを活用し、「安全・安心」な製品をお届けいたします。さらに、資源を有効活用し、無理や無駄を継続的に削減していくことで環境に配慮しながら効率的な生産を行い、社会への責任を果たしていきたいと考えています。

※PAS：プロダクト・アシスタンス・システムの略。原料受入れから出荷までの全製造工程を通して、ヒューマンエラーの防止と、原料情報と生産記録をデジタル化しデータベース化することで、問題発生時の速やかかつ適切な対応を可能とするニチレイフーズ独自の生産管理システム。



工場完成イメージ図



サクッとした衣とジューシーな肉質のフライドチキン

株式会社 ロジスティクス・ネットワーク ～ 豊かな食生活への貢献をめざしています。

株式会社ロジスティクス・ネットワークは、ニチレイロジグループの中の物流ネットワーク事業(輸配送機能)を担う会社です。

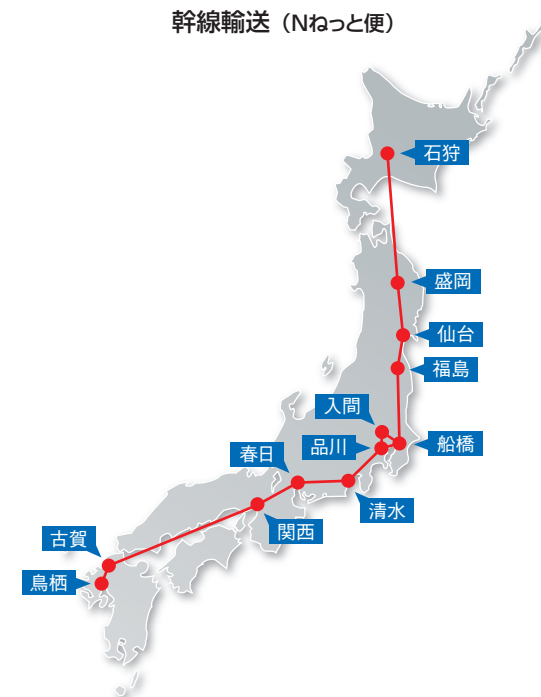
私たちは、約4,000台/日のトラック運行(延べ運行台数)を誇る全国幹線ルート(Nねっと便)と地域内集荷配送ルートで、グループ106ヶ所の物流拠点と納品先様を効率的につないでいます。

この国内では類のない冷凍・冷蔵物流ネットワークをバックボーンに、大手加工食品メーカー様の物流共同化事業はもちろんのこと、流通センターを介した店舗一括納品から畜産品・水産品の流通加工サービス、高度な付帯作業まで、24時間365日、日本全国にきめ細かなサービスを提供しています。

高度な情報システムと、大ロットから少量・多品種・多頻度にも対応できる柔軟な運営ノウハウに加え、ISO9001に基づく徹底した品質管理により、食の「安全・安心」と「おいしさを運ぶネットワーク」をさらに充実させることで、生産者から食卓まで、皆様の豊かな食生活に貢献していきます。

会社概要 (2010年3月末現在)

社名	株式会社ロジスティクス・ネットワーク
所在地	〒104-0045 東京都中央区築地七丁目17番1号
設立年月日	1986年8月8日 (2004年4月1日株式会社日本低温流通より社名変更)
資本金	1億円
代表者	代表取締役社長 立石 孝
売上高	699億円
従業員数	約500名
事業内容	貨物運送取扱事業、冷蔵倉庫業(冷蔵保管能力約29万トン)



物流ネットワークが広がります(習志野物流センター)



ニチレイグループは、環境保全活動を継続的に推進しています。



環境目標達成状況

ニチレイグループ各社は3ヶ年ごとに環境目標を策定しています。
最終年度にあたる2009年度目標と、その達成状況をご報告します。



各事業会社	課 題	2009年度目標	達成マーク	達成状況
ニチレイ フーズ	廃棄物削減	- 直営・子会社全生産工場でのごみゼロ達成(12事業所) - 生産トン当たりの排出量を2005年度比23%削減		10事業所 25%削減
	地球温暖化防止	- 生産トン当たりのCO₂排出量を1999年度比15%削減 - 商品輸送時のエネルギー使用量原単位(kℓ/百万トンキロ)を2006年度比7%削減		7%削減 8%削減
	環境配慮商品	売上高当たりのプラスチック容器包装重量を2004年度比8%削減(対象:家庭用商品)		10%削減
ニチレイ フレッシュ	廃棄物削減	全廃棄物再資源化のしくみ構築		廃棄物再資源化率97.5%
	地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比15%削減		16.9%削減
	環境配慮商品	- 養殖時の薬剤使用を低減したえびの取扱い拡大 養殖えびに占める売上高比率60% - FA(Free from Antibiotics)チキン、オーガニックチキンの取扱い拡大 年間取扱量4,000トン - 新たなFA(Free from Antibiotics)商品の開発推進 - 循環型の養鶏事業への取組み(鶏ふん⇒有機質肥料⇒飼料米⇒「純和鶏」)		売上高比率48.9% 年間取扱量5,000トン 諸状況の変化により断念 2010年3月より出荷開始
ニチレイ ロジグループ 本社	廃棄物削減	最終処分廃棄物量を1999年度比99%削減		96%削減
	地球温暖化防止	- エネルギー使用量原単位を2005年度比4%削減(対象:エネルギー管理指定工場) - 受託物流におけるCO₂排出量原単位を2006年度比3%削減 - グリーン経営認証を推進し、45社の協力会社で認証取得		対象15センター中5センター削減達成 受託物流CO ₂ 原単位分析を実施、実績の信頼性向上対策を実施 45社の協力会社で認証取得
	環境配慮商品	物流共同化などにより環境負荷を低減する事業を推進		共同配送拡大 TC事業拡大
	オフィス	社有車へのエコ車両採用を推進、事務所の省エネルギー・グリーン購入推進		エコ車両比率3%アップ オフィス省エネ委員会開催 全事業所のエネルギー使用量を把握
ニチレイ バイオ サイエンス	廃棄物削減	廃棄物再資源化率98%(開発センター)		廃棄物再資源化率99.9%
	地球温暖化防止	売上高当たりのCO ₂ 排出量を2004年度比2%削減(開発センター)		40.1%削減 (排出総量は2004年度比で17.1%削減)
	環境配慮商品	紙製ラベル導入率50%以上		導入率50%
ニチレイ プロサーヴ	廃棄物削減	コピー用紙使用量削減 一人当たりの年間使用量7,000枚以下		6,870枚/人
	地球温暖化防止	本社電力使用量を2005年度比50%削減(照明・コンセント)		52%削減
	従業員環境意識向上と社会貢献活動の推進	環境教育および社会貢献活動への参加(現活動の継続と追加活動の実施)(2009年度参加率100%)		CSR報告書説明会実施(参加率87%)、社会貢献活動へ参加

ニチレイグループWebサイトに『ニチレイグループCSRレポート 2010』を掲載しています。是非、ご覧ください。

<http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>



環境活動紹介(植林活動)

ニチレイグループでは、全国各地において積極的な環境活動に取り組んでいます。
様々な活動の中から、今回は森林の保全や植林活動による地域自然保護活動をご紹介します。

ニチレイフーズ白石工場

開拓などで荒地となった蔵王山麓一帯を緑豊かな森に復元するために、白石工場有志社員35名が、NPO法人「蔵王のブナと水を守る会」の植林事業にボランティアとして参加しました。

この活動は、年1回、毎年6月に開催されています。NPO法人「蔵王のブナと水を守る会」では、白石市とともに、南蔵王山麓の荒廃地を共同で買い取り、植林し緑の森を復元する活動を行っています。

今後も、この活動を継続していきます。



ニチレイプロサーヴ



東京都では、都内の保全地域の自然保護活動として「東京グリーンシップ・アクション」を展開しています。ニチレイプロサーヴは、この活動に賛同し2007年度より東京都東久留米市の野火止用水歴史環境保全地域の雑木林の管理保全のための下草刈りへ参加しています。また、新たに2009年度には「東京湾にカブト虫の育つ「うるおいの森」を作る活動」へ参加し、東京都江東区若洲地区周辺の植樹地域に苗木を植えました。これらの活動は今後も継続していきます。

ニチレイフレッシュ

新人研修の一環として、岩手県一関市にある室根山での植林活動に参加しています。地域の方々と植樹することを通じ、環境に配慮する気持ちとともに、共同作業による重要性を学んでいます。



Introduction

定番、売れ筋商品(家庭用)をご紹介します。

お弁当にGood！

からあげチキン



冷めても、やわらかジューシーなお弁当用からあげです。旨みと豊かなコクをプラスし、ジューシー感をアップしました。

ミニハンバーグ



シンプルで飽きのこない味付けで、冷めてもおいしいお弁当用ハンバーグです。お肉のジューシー感、風味をアップしました。

さけの塩焼き&ブリの照焼き



国内で水揚げされた原料(北海道:さけ、山陰地方:ブリ)を調理しました。「さけの塩焼き」にはオホーツク海の海水塩を、「ブリの照焼き」には福岡県産大豆を使用した丸大豆醤油を使用しています。

ごはん

本格炒め炒飯



卵を米一粒一粒に絡めながら、パラッと仕上げた本格的な炒飯です。米の食感が、よりはっきりと感じられるよう新製法にて仕上げました。「ふっくらもちっと」した食感になっています。

おやつ

今川焼 (カスタードクリーム)



卵黄と生クリームの濃厚な味わいと、しっとりとした皮のバランスがおいしい今川焼(カスタードクリーム)です。生地をふんわりとやわらかい食感に改良し、カスタードクリームのおいしさを引き立てた商品に仕上げました。

冷凍野菜

アイダホ生まれの クランチポテト(塩味つき)



塩味の衣がコーティングされた細いフライドポテトです。サクッとした食感が長時間保てるように仕上げました。お子様のおやつや料理の付け合せにぴったりです。

おいしさ^と工夫

当社の商品を使った簡単な調理例をご紹介します。



からあげの味噌マヨネーズ

【材料 2人前】

キャベツ 100g、もやし 70g、にら 20g、ねぎ 5g、糸唐辛子 適量、マヨネーズ 大さじ2、味噌 大さじ1、油 大さじ1、塩 適量、こしょう 適量

●お弁当にGood！ からあげチキン 1袋

【作り方】

- ① からあげチキンは、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで温めます。
- ② キャベツは食べやすい大きさに切り、にらは5cmの長さに切ります。
- ③ 温めておいたフライパンに油を引き、キャベツ、もやし、にらを炒め、塩、こしょうで味付けをします。
- ④ マヨネーズ、味噌を混ぜ合わせ味噌マヨネーズを作ります。
- ⑤ ③の上に温めたからあげチキンをのせ、味噌マヨネーズをかけます。
- ⑥ スライスしたねぎと糸唐辛子を飾ります。



かにあんかけ炒飯

【材料 1人前】

かに缶 30g、(白髪)ねぎ 10g、にんじん 5g、片栗粉 大さじ1、鶏がらスープの素 小さじ2、お湯 200cc、水 大さじ1、塩 適量、こしょう 適量

●本格炒め炒飯 1/2袋

【作り方】

- ① 本格炒め炒飯は、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで温めます。
- ② 鍋にお湯を入れ、鶏がらスープの素、かに缶を入れ、塩、こしょうで味を整えます。
- ③ 片栗粉を水で溶き、②に入れます。
- ④ ①の本格炒め炒飯に③のかにあんかけをかけます。
- ⑤ (白髪)ねぎとにんじんの千切りをのせます。



株式の状況

(2010年3月31日現在)

発行可能株式総数

720,000,000株

発行済株式総数

310,851,065株

※発行済株式総数には、自己株式(913,978株)を含んでいます。

単元株式数

1,000株

株主数

32,249名

●大株主

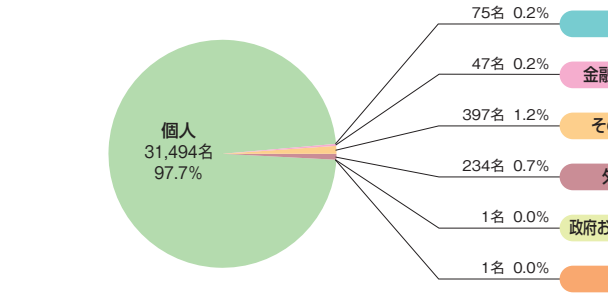
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,472	7.9
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
株式会社みずほコーポレート銀行	15,370	5.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,277	4.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,903	4.5
株式会社損害保険ジャパン	11,059	3.6
第一生命保険相互会社	5,716	1.8
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 みずほ銀行口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7
富国生命保険相互会社	4,100	1.3

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。

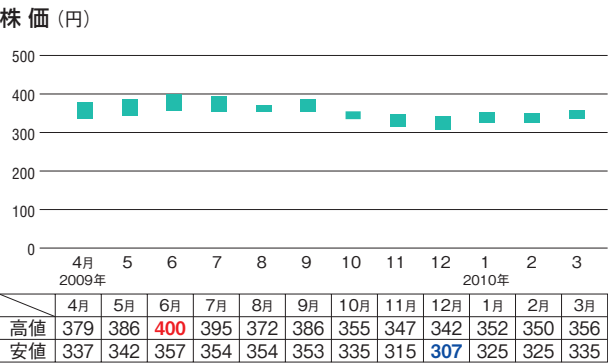
2. 持株比率は、自己株式(913千株)を控除して計算しています。

3. 第一生命保険相互会社は、2010年4月1日付で株式会社化され「第一生命保険株式会社」となりました。

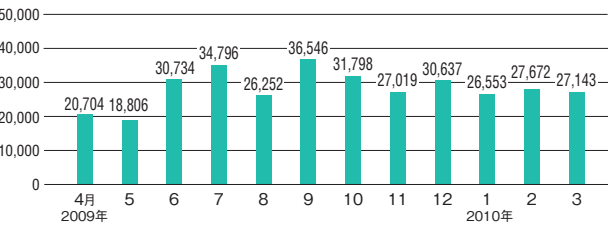
●所有者別株主数分布状況



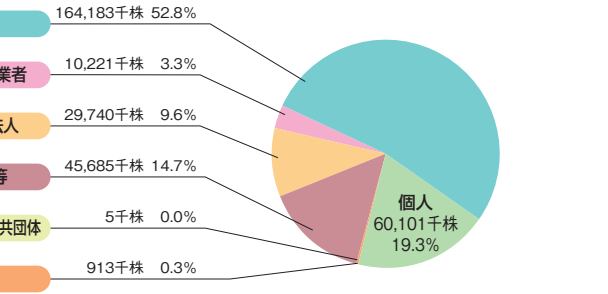
●株価チャート



出来高(千株・月間合計)



●所有者別株式数分布状況



会社概要

(2010年6月25日現在)

社名

株式会社ニチレイ

所在地

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号
ニチレイ東銀座ビル

設立

1942年12月

役員

代表取締役 会長 浦野 光人
代表取締役 社長 村井 利彰
取締役 専務執行役員 相馬 義比古
取締役 専務執行役員 長谷川 寿
取締役 執行役員 河合 義雄
取締役 執行役員 荒 剛史
取締役 執行役員 中村 隆
社外取締役 判治 誠吾
社外取締役 炭谷 俊樹
社外取締役 川俣 美由里
常任監査役 (常勤) 三田 勇太郎
監査役 (常勤) 山口 秀俊
社外監査役 (非常勤) 齊田 國太郎
社外監査役 (非常勤) 安念 満
執行役員 山田 達男
執行役員 森 康益
執行役員 大谷 邦夫

会計監査人

新日本有限責任監査法人
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル



(株)ニチレイ本社ビル

<http://www.nichirei.co.jp/>

情報満載のホームページ

事業紹介や株主・投資家向け情報はもちろん、皆様のお役に立つ商品・サービス情報を掲載しています。

